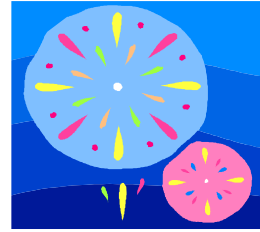


それゆけ！ としよかんだより



2011年8月

第52号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

増福院文庫の神道書籍について

密教学科准教授 佐藤 隆彦

高野山に相伝された両部神道の流派に御流神道がある。御流神道の聖教の中には、家屋の作り方や、神祇の参拝の仕方、さらに雑多な大事類を雑然と集めているが、その内容はきわめて豊富でまさに加持祈祷の宝庫である。御流神道は、正統的な密教の教理からするといささか問題があると思える内容をも含んでいるが、そのことは反面まさにその時代の人々のニーズを直視し真摯に民衆とともにあった結果ともいえる。御流神道をはじめ密教神道を研究することにより、神道に対して密教的な意味づけを積極的に行っていた密教僧のバイタリティーに触発されるとともに、ややもすると密教の中では見えにくかった世界が神道との交渉により明確化されることが少なくない。

御流神道の系は、高野山日光院英仙によって集成され、増長院鑿善によって増補確立された。英仙・鑿善の自筆を含む膨大な聖教類が高野山大学図書館増福院文庫に所蔵されている。これらの聖教は近世の神道説を考察する上でも非常に重要な資料である。

御流神道は、『豎印信』、『横印信』、『八十通印信』、を中核として伝受がおこなわれる。高野山大学図書館増福院文庫には、英仙自筆の『豎印信』、『横印信』は残されていないが、鑿善のものになる『御流神道 乾』(060/061/01)『御流神道 坤』(032/005/01)が所蔵されている。『御流神道印信八十通』(十二包八十一通)については、英仙が宥音から相伝した印信(083/006/14)が残されている。また、鑿善がそれに基づいて受者の転写用に写した『御流神道八十通印信』(083/007/21)もある。

その他、御流神道灌頂式についても、英仙本(083/012/02)が所蔵されておりこれも貴重である。これらはまさに高野山における英仙、鑿善系の御流神道伝授におけるもっとも由緒正しい正本といえる。

英仙以降の高野山における御流神道の特徴は、その中に唯一神道を兼伝していることにある。それは、吉田・萩原両流の神学者吉川惟則にしたがって英仙が唯一神道の源底を極めたことによる。鑿善の『御流神道・唯一神道伝授目録 附聴書』には、英仙以降相伝された唯一神道の神書が整理され目録化されている。それらの書籍は、ほぼ増福院文庫に所蔵されている。特に、『唯一神道誓状』(075/094/02)、『諸祓祝詞』(101/44/01)、『唯一神道』八帖(085/019/08)、『神道口伝次第』(083/029/01)、『三元十八神道次第』(101/038/01 鑿善の臨写)は、英仙のものが残されており極めて貴重である。

特に、鑿善は、『御流神道・唯一神道伝授目録 附聴書』(089/073/01)を記しているが、この書は御流神道を集大成した伝授目録であり、御流神道伝授における一大金字塔といっても過言ではない。鑿善は御流神道以外の神道についても非常に精力的に受法するとともにその内容を整理し記述している。

『神道 / 慈雲伝 三輪流 南都伝 / 伝授目録』(089/075/01)は、『御流神道・唯一神道伝授目録 附聴書』の姉妹編として作成されたものである。この本は、まず慈雲尊者の雲伝神道と、三輪流神道と、南都東大寺新禅院に相伝していた神道とをそれぞれ整理し目録化したものである。三輪流神道は英仙以来の相伝を記し、東大寺新禅院相伝の神道は、智蓋から受けて記している。

なお鑿善は雲伝神道についても非常に熱心に研究したようで上述の目録作成以前の寛政十二年(1800)に『雲伝神道伝授総目録 乾坤』二冊(083/005/03)を作成している。この目録には鎌倉鶴岡八幡所伝の神道についても記されている。なお、慈雲尊者は御流神道に対しては厳しく批判を加えているが、鑿善はそれに対して反論も行なっている。その他、鑿善は神道概論とも云うべき『神道見聞録』(082/071/01)も著述している。

高野山には、山口日向守所伝の神道や醍醐の淳海師所伝の神道なども伝えられており、非常に様々な神道が相伝されるとともに神道研究が盛んであったことがわかる。それらの神道を集大成するとともに研究の最先端を走っていたのが鑿善であり、その資料が残されているのが高野山大学図書館増福院文庫である。

『僕にとって本とは』

図書館学生モニター 吉田 享弘(密教学科4回生)

今回、学生モニターとして活動することになった吉田享弘です。大学の図書館と本の面白さをみなさんに知ってほしいと思っています。よろしくお願いします。

ところで、皆さんにとって本とはなんでしょうか。考えてみたことがあるでしょうか、ただの活字の集まりと思う人がいるかもしれません。しかし、僕は思っていることがあります。僕にとって本は「窓」なんです。

小説でもどんな本でも一冊を書くのに著者がどれほどの情報量を使って書いてあるか想像してみてください。ストーリーを作るときに、登場人物を考えるとときに、著者は世界にある色々な情報や事実の事柄を使って本という作品を作っているんだと僕は思います。ちょっと考えてみたらすごいことだと思いませんか。みなさんはどう思うでしょうか。

本を読むってことはそんな本に詰め込まれた情報をしらず知らずのうちに読んでいってることです。とても簡単に自分の知らない世界の事柄を眺めていることになるんです。とても僕は興味深いです。だから僕にとって本はいろんな世界を見るための「窓」です。

これから大学図書館を少しでも多くの人に利用しもらえるように、アイデアを出して活動していくつもりです。皆さんに是非大学の図書館を利用して、本を読み、知らない世界を見てほしいとおもっています。



地鎮祭の様子

『写真でみる本学図書館建設』①

昭和2年(1927)6月11日午前9時、地鎮祭が、御遠忌局総裁泉智等大僧正によりとり行われました。当時の本学学長高岡隆心師が祝辞を延べ、各機関・山内御住職皆参の下、盛大な地鎮祭となりました。(つづく)

今年度より、学生モニター制度が数年ぶりに復活しました！公募した結果吉田享弘さん(本学密教学科4回生)と湯川咲紀子さん(同スピークア学科3回生)から申し出がありました！「学生」の立場からの意見や選書等、様々な面でサポートしていただきます！

平成23年度第2回図書館文化講座

『明日へ向かって走れ！』を開催しました！

講師：高野町副町長 中島紀生先生
日時：7月14日(木)16:40~17:40
場所：本館205号教室



マラソンの楽しさや良さがとても伝わり、思わず、走りたくなるような講演でした！

図書館通信

ミニ企画コーナー

「本学教員推薦図書」コーナーを設置いたしました。8・9月は森崎先生と前谷先生の推薦図書です。どうぞご利用下さい。



2011年8月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

2011年9月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館
	9:00-17:00		

切り取り

(編集後記)

夏期休暇に入りますね！夏期休暇中も図書館は開いておりますので是非ご利用下さい！また、夏期休暇に伴い学部生・大学院生(通信除く)を対象に長期貸出も行っております。(石原)

発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡高野町高野山385
高野山大学図書館 閲覧室
Tel:0736-56-3835
Fax:0736-56-5590
E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp